

おごせ 教育 Pick Up

越生小学校



1月20日～24日に、「給食について関心を高めること。給食に関わる方たちに感謝の気持ちを伝えること。」を目的に給食週間を行いました。給食の時間を利用して、各クラスで調理員さんと一緒に会食し、手紙や感謝の言葉を贈りました。

梅園小学校

2月6日に長縄大会が行われました。本番まで、休み時間にたくさん練習し、時にはチームの中で、意見がぶつかり合う日やうまく跳べない日もありました。当日は、大きな掛け声とともに、真剣に取り組む姿があり、学年がまさに“ワンチーム”となって跳ぶことができました。



おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子供たちを写真で紹介するコーナーです。

越生中学校



1月29日から3日間、2年生が京都・奈良へ修学旅行に行ってきました。今年のスローガンは「心を育てる大冒険～出会い・学び89人で創る僕らの物語～」。体調不良者も出ず、グループで名所をまわったり、ホテルではすき焼きをたくさん食べたり、楽しい旅行になりました。

平成29年4月、通信制高校では自動車科と共に全国初となる国家資格の取得できる調理科を立ち上げ、この三月、初の卒業生を送り出します。

この三年間、自動車科・普通科・調理科、各学科の教育内容の充実に努力を注いで参りました。自動車科は、よりじっくり、基礎から実践的な技術まで学べるように実習時間を増やし、普通科は地域貢献の取り組みを学科全体で進め、調理科は通信制高校で全国唯一ということもあり、NHK高校講座に出演する機会を頂きました。一方部活では、昨年度、軟式野球部が県大会で優勝し、全国大会ではベスト8に入るという成績を上げました。

この間駆け抜けるように教育活動に取り組んできましたが、これからも、多様な生徒

ズームイン教育271

「調理課」
完成年度を迎える

清和学園



の学びの場となることができよう、地域に根ざした教育活動を展開していきたいと考えております。

今後とも、よろしくお願ひします。

越生浪漫

No. 134

越生人物往来⑪

句碑をのこした
俳人たち



福田弘湖「梅千句之碑」明治20年 梅園神社

福田弘湖 「玉垣の外（このも）は梅のはやしかな 弘湖」
 (裏) 「福田翁は東京の産にして数年此郷に住まい梅の千句を吟じ明治十四年七月十二日卒ス其詠功を欽慕して干茲七年の同志と共に該碑を建設ス
 明治二十年八月廿五日」
 弘湖は本名遠山忠吉、江戸白銀町に生まれ、落語家となつて噺家忠吉を称し、のち児玉逸淵に俳諧を学び、弘湖と号しました。俳諧は、参加者が最初の発句から最後の挙句までを五七五・七七と読み継いでいくものです。発句から発展した俳句を含む文芸活動全般を俳諧と称していました。江戸後期から明治にかけての最盛期には、さまざまな門派が生まれ結社が組織されました。なかでも大きな勢力を持つていたのが、松尾芭蕉の流れを汲む加舎白雄が創始した春秋庵です。弘湖の師逸淵は、後述する川村碩布から春秋庵七世を、弘湖は十世を嗣ぎました。碑の句を揮毫した野口有柳は十一世、「梅千句之碑」の篆額は十二世三森幹雄によるものです。



川村碩布「梅翁圓滿之碑」篆額：三森幹雄 揮毫：野口有柳 明治25年 上野一区 旧道沿い

川村碩布 「世の中を降（くだ）らひらげて雪白し 碩布」
 川村碩布は、寛延3年（1750）に馬場村（現毛呂山町毛呂本郷）の名主の家に生まれました。風流を好み、天明5年（1785）ごろ、江戸日本橋の春秋庵加舎白雄の門を叩き、やがて門下八哲に挙げられ、文化13年（1816）に、春秋庵六世（自称三世）を嗣ぎました。郷里では山根連を結社して後進を指導育成し、天保14年（1843）、94歳の天寿を全うしました。この句碑は、明治25年（1892）の碩布五十回忌に、越生町上野の而耕（比留間源吉）が発起人となり、碩布を追慕する越生や毛呂の俳人たちによつて建てられました。



斎藤俳小星句碑 昭和13年 西和田 山吹の里歴史公園

斎藤俳小星 「松籟や幽（かそせ）く近く春の蟬 俳小星」
 (裏) 「武州所沢の産 名は徳藏 ホト、ギスの同人にして土の俳人として夙に有名な昭和三十二年五月八日建立 建設委員 成野友月 平沼静風 安斎竹亭 石井冬青 柿沼鬼浪」
 大正14年（1925）、安斎律（竹亭）らは、「ホトトギス」同人の斎藤俳小星を選者に迎え、俳誌「いづみ」を創刊しました。「ホトトギス」は、三森幹雄に代表される旧派を「月並」と呼んで排撃した正岡子規の志を継いだ高浜虚子が主幹した俳誌です。



角川照子句碑・角川源義句碑 昭和58年 西和田 山吹の里歴史公園

角川源義・照子
 「道灌の地のもてなしや川焚火 源義」
 「梅の坂のほれば雲に在る如し 照子」
 角川源義（大正6年～1917）昭和50年（1975）は、国文学者、俳人。角川書店の創業者で、辺見じゅん、角川春樹、角川歴彦の父です。角川照子（昭和2年～1927）平成16年（2004）は、昭和24年角川源義と結婚、昭和53年、源義創刊の俳誌「河」主宰を継承しました。説明板によると、源義の句は、昭和49年に毛呂の流鏑馬を見学後、当地に立ち寄り、焚火の輪に加わつた時の感興を詠じた作。照子の句は、昭和58年春の吟行時の作です。昭和58年に、「河」同人有志によつて、夫婦句碑として建立されました。



名取思郷句碑 昭和63年 西和田 山吹の里歴史公園

名取思郷 「里言葉なじみ易くて濃山吹 思郷」
 (裏) 「名取思郷 本名 勇 大正十三年一月十九日東京生 俳句誌 あすか主宰 思郷は歴史的情趣の濃い、この地を愛ししばしば来遊 昭和六十一年七月、越生に傘下の山百合会を生み、爾来句に文に越生の詩情を江湖にしらしめた この句碑は主宰誌あすかの創刊二十五周年を記念して門下一同相計り、建立したものである 昭和六十三年六月六日 句碑建立実行委員長 平川雅也 あすか山百合会会長 新井八重女（以下略）」